

令和4年度 武蔵野市立第六中学校 学校評価報告書

【評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:達成がやや不十分である D:達成が不十分である】

校長名 鈴木 斉

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
	確かな学力の育成 基礎基本の定着	アンケートで「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒が全校で 90%以上は、「先生が説明するだけでなく、生徒が発表する機会が授業の中にある」、「タブレットPC や電子黒板、映像等の ICT を使用した授業はわかりやすいと思う」という設問であった。後者は、昨年度に比べてポイントが上がっている。学習者用タブレットPC の使用により主体的に学習に取り組む態度が育まれていると考えられる。特に、数学や英語の少人数習熟度別指導に加えて、ICT 機器の活用による授業改善の工夫による効果があるといえる。また、学習指導員による学習支援教室の実施も学力向上の一要因に挙げられる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組として、昨年度の改善策である「各教科 ICT 機器の活用を取り入れた授業改善」により今回ポイントが上がったと考えられる。来年度も継続するとともに、一人ひとりの学習状況に応じた個別学習も視野に入れていく。そして、さらに興味・関心を高めながら、基礎基本の定着の工夫を図っていく。 ・「本時の目標」や「めあて」を明確に示すことを徹底させることによって、学習の見通しをもたせ、多種多様な生徒に対して、「わかる喜び」を味あわせる授業を展開していく。 ・土曜日を中心に行われる学習指導員による学習支援教室を有効に活用することで、個別指導の一層の充実を図っていく。特に、習熟の程度の低い生徒への学習支援には積極的にやっていく。また、進度によっては発展的な学習内容の指導の充実も図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の利用は、あくまでも補助的なものなので少しずつ利用して便利なツールであることが学校・家庭・生徒に認識されればよい。基本、対面での授業を充実させていく方向性でよい。 ・学校の取組を評価します。特に学習支援教室の有効活用に期待しています。 ・生徒は ICT 機器のある環境に触れて生活しているためスムーズに活用することができている。先生方は日々ブラッシュアップされているため今回のポイントアップにつながったのではないだろうか。 ・今や ICT/DX の世界になじみ習熟することが今後より高位な学習や社会生活に必須といえます。積極的な取組で成果をあげており評価されます。
	言語活動の充実を通した思考力・判断力・表現力の育成	今年度は感染症対策を講じながら学校行事を行うことができたことから、言語活動の充実を図るために行っている本校の特色である「ポスターセッション」を実施することができた。ただ密になることを避けるため、学習者用タブレット PC 等を活用しての発表という形で実施する学年もあった。機器の利用によるスライド作成は発表者の工夫により多種多様な表現力が数多く見受けられ、今後の発表にさらなる進化の期待がもてる。また、朝読書の定着により、生徒一人ひとりに読書習慣が身に付いてきた。これにより朝から落ち着いて学校生活を送ることができる環境が作られている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、1学年と2学年の実施となった「ポスターセッション」だったが、六中の特色ある教育活動のひとつでもあるので今後も学校行事とタイアップしたテーマ設定で行っていく。また、学習者用タブレット PC を有効活用することで個人発表等の言語活動の進化が数多く見受けられた。より深い学びを追求していくためにも、ICT 機器の活用をより一層工夫していく。 ・言語活動をさらに充実させるために、図書委員会主催のビブリオバトル等は、今後も継続して取り組んでいく。また、各階に配置した新聞閲覧台により新聞を見る生徒が増えてきている現状をふまえ、生徒が気軽に活字に触れることができる環境を作っていく。そして、学校図書館サポーターや地域の人材を活用して、学校図書館をより一層充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表を見ている限り、学習者用タブレット PC を使った研究発表は非常に成長を感じる。今後もより一層拡充させてもらいたい。学習者用タブレットPCの一層の活用を期待しています。 ・伝統のポスターセッションを引き継ぎながら新しいスタイルを取り入れられていることが素晴らしい。ICT 機器のみならずアナログ的な物も大切にされていることも良い。 ・議論をすることが苦手な社会人が増えています。ビブリオバトル等をひとつのきっかけとして自分の意見を表現すること、他者の表現を受け入れ認めることを学んでほしい。 ・ポスターセッションによって培われる表現の習熟は机上の学習とは異なり、より社会で必要となるスキルと思われます。生徒たちが積極的に取り組まれていて好ましい。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が ICT 機器などを便利なツールとして活用することにより学習効果を高め主体的に学ぶ力を育成できるように、教職員も校内研修などの研修に励み授業改善に取り組んでいく。 ○学習支援教室を有効活用して、個別指導の一層の充実を図りながら習熟の程度の低い生徒への学習支援を積極的に行っていく。 ○朝読書、図書室総選挙(ビブリオバトル)、読み聞かせなどの取組により、今後も六中のストロングポイントとして読書習慣を身に付けさせるとともに、落ち着いた学校生活を送れる環境を作っていく。 ○学習発表会の舞台発表に向けて、各学年ポスターセッション等により自己の表現力を育成するとともに多様性を認める他者理解を図っていく。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生活指導 ・進路指導 ・特別活動	基本的な生活習慣の確立 人権尊重の精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「そう思う」「ややそう思う」という生徒の回答が90%を大きく超えている問いが「あいさつをしたり、時間を守ったりすることができる」、「公共物を大切にしている」だった。他者との関わりも含め学校生活の中で概ね基本的な生活習慣が身につけていると考えられる。 ・86%の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答した「先生は、道徳授業を大切にし、豊かな心の育成に力を注いでいると思う」から、今後も多様性を認め合い尊重する人権教育を推進していく。 ・都SCや市派遣相談員、SSW との連携により教育相談活動が充実していることから教員と生徒との信頼関係が強くなってきている。今後も関係諸機関と連携しながら取り組んでいく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自然とあいさつのできる雰囲気にするためには、学校にいる誰もが安全安心な学校環境を整えていく必要がある。生徒会や生活美化委員会等の取り組みにとどまることなく、日常の「あいさつ」等、自発的な声掛けができる生徒の育成を行っていく。そのために ・都SC、市派遣相談員、SSW と連携して、校内委員会を中心に教育相談体制を充実させていく。特に、生徒や保護者に対して、教育相談室の活用を通して安心して相談できる環境づくりを行っていく。そして、特別支援教育コーディネーターにより教員の教育相談に対する意識を高めていく。 ・いじめ対策委員会を中心に組織的に、早期発見、早期対応を心掛けることで、いじめに対しては毅然とした姿勢で対応していく。 ・学習者用タブレット PC においては「SNS 東京ルール」をもとに、情報管理を含め、加害者にも被害者にもどちらにもなる要素を持っている情報モラル等について様々な知識を適宜生徒に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過度な多様性、人権教育は疑問を感じる。もともと日本は歴史的に見ても多様性があり人権に関しても進んでいる。 ・生徒、保護者、教職員がお互いに信頼しあえる関係ができれば豊かな学校生活が送れる。そのための環境づくりに尽力されていることに敬意を表します。 ・少なくとも校内で出会った人には、生徒の方からあいさつができるとうい。 ・六中生のあいさつはいつ学校へ伺っても素晴らしいと感じます。小さな学校ならではの先生と生徒の距離間の近さでアットホームな雰囲気から道徳心豊かな教育を期待。 ・人権尊重の精神は命の大切さにもつながります。生徒達が成長していく上で本当に大切なこと。自分自身も他者も大切にしようとして伝えたい。 ・「SNS 東京ルール」とともに子供達を取り巻く最新のネット状況の把握も常に必要。 ・あいさつなどの基本的なことからさらに高度で大切な人権やSNS でのルールをもっと積極的に学習することが必要。
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や総合等において「生き方指導」として人生や職業等に重点を置いた指導に加えて、自分の良さを肯定的に認める感情など心の育成にも力を入れて指導を行ってきた。一人ひとり多様な生き方を認め考える意識が育っている。また、今年度は職場体験が実施できたことにより、職業に対する意識が高まってきた。今後も社会に貢献するために自分自身の将来の生き方を考えて行動する態度や能力を育てていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した進路指導計画に基づき、体験活動等を行い、キャリア教育を推進していく。特に、生徒の適性や能力の発見に努めるとともに自己理解・他者理解により、多様な他者と協働してよりよい未来の創造ができるように自分の人生を考えさせる「生き方指導」に重点を置いた指導を心がける。そして、望ましい職業観・勤労観の形成を図っていく。また、学年集会や保護者会を通して「進路指導＝進学指導」ではないことを伝えていく。 ・来年度も学校 2020 レガシーとしてオリンピックやパラリンピアンの実験授業や講演を「生き方指導」として活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正解がないことだけに多様な進路があることを伝えることは重要。 ・進路指導がただ単に進学指導ではないことを伝えていくことは重要。 ・中学校の3年間は長いようで短い。進学・進路というのは入学と同時に始まっている。学年集会等で継続的な指導を。 ・コロナ禍でできなかったことが今年度はできることが増え生徒たちの人生を考える良い機会をたくさん与えて頂けて良かった。 ・「進路指導＝進学指導」ではない生き方指導に大賛成。人間力のベースを中学時代にぜひつけてください。 ・中学生で「人生観」は難しいものの生き方のイメージを自由に描けるようになってほしい。
	防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域、防災課、消防署等と連携した総合防災訓練の企画が2年越しで実施することができた。ただし、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため一部行うことができず次回以降の課題となった(炊き出し等)。非常時に地域の防災の要となるのが中学生であることを学ぶためにも今後も検討を重ねながら実施していきたい。 また、今年度も密を避けながらの避難訓練を実施することで、防災に対する意識が高まっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各方面と連携して準備を進めてきた総合防災訓練が2年越しではあったが今年度実施することができた。実現に向けて地域の消防団、防災課、消防署等と何度も連絡して連携を深めることができた。今回実施できなかった案件も含めて内容の見直しを行い、災害時における地域との連携をさらに深めていく。また、来年度は地域の消防団の一員として活躍している六中卒業生の話をお聴きする企画等も検討し、団員が減少している地域の消防団を有効活用して地域で貢献できる人材となる意識をもたせていく。 ・避難訓練がマンネリ化しないように、起こりうる様々な場面を想定して企画したり、他校の取り組みを参考にしたりして実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に訓練することは重要。コロナで実施できなかったために忘れていた事がある。 ・地域との連携を踏まえた防災訓練は素晴らしい。 ・六中、地域、保護者、卒業生など密に関わることで有事の際協力し合える環境をさらに整え続けていくことが大切。 ・災害時に一緒に考え一緒に行動できる六中생을期待。 ・地域でも防災に対する見識を高めている。六中生が地域に今後も貢献することを願う。 ・発災時は中学生も大切な力となる。被災された方を助ける側となる意識を育てられるとうい。

<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○生徒、保護者、教職員がお互いに信頼しあえる関係ができるような環境づくりを推進していくとともに関係諸機関と連携して、人権や情報モラル等、様々な問題に対して臨機応変に対応できるように取り組んでいく。</p> <p>○今年度実施した総合防災訓練をもとにして、さらに地域の方や保護者とともに行う企画を考えることで、有事の際に協力し合える環境を整えていく。</p> <p>○武蔵野赤十字病院と連携した教育(医師・看護師による生命尊重の視点に立った授業)を行うことで六中ならではの「生き方指導」を今後も継続していく。</p> <p>○互いに違いを認め尊重し合い、自他を敬愛する態度を育成するとともに、自己重要感や自己許容など心の教育の充実を図っていく。</p>

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
地域連携	地域から信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は感染拡大防止対策を講じながら土曜日の学校公開や六中公開を実施することができた。新入生の保護者や児童が授業を参観できたことも成果といえる。参観された保護者からの学校や授業に対するメッセージは授業改善や地域から信頼される学校づくりのアドバイスとして参考になっている。また、陸上競技大会やマラソン大会では保護者の協力のおかげで無事に終わることができた。そして、3年ぶりの開催となった合唱コンクールでは保護者の協力のもと入替制でスムーズに行うことができた。 今年度も学校だよりや学年通信等により情報を発信していることから、保護者から肯定的な評価をいただいている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学期に1回以上の学校公開を行い、地域に開かれた教育活動を展開していく。特に学習者用タブレット PC などの ICT 機器を有効活用しながら、生徒が主体的に学習活動に取り組む姿が見られる授業や発表活動を公開していく。 今年度は、1年生と2年生での実施となった「ポスターセッション」だったが、六中の特色である各学年の「ポスターセッション」を創意工夫して行うことで多くの方々に教育活動を参観していただくよう努めていく。 これからも学校ホームページ、学校だより、お知らせ等で情報を発信して地域から信頼される学校づくりを推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発表の機会が増えることは良い事。さらに進化させていきたい。 感染症予防対策を講じながら様々な取組をされた教職員に感謝します。 六中だよりいつも楽しみにしております。なかなか学校公開へ伺えないので HP でもう少し学校の様子を見られたらうれしいです。 学習活動の発表は教育的な成果につながるがアピールの対象に限られる。より地域に密着した清掃や植栽などの活動を取り入れていくのもいいのでは。
	小中連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は感染拡大防止対策を講じながら、7月には本校において六中学区の6年生が授業見学を行い、分科会を実施することができた。11月には、小学校の授業見学を行い、講演会の後、協議会を実施することができた。また、来年度進学してくる6年生に対して生徒会役員が小学校を訪問して、学校生活についてビデオや冊子で説明する活動を行った。 開かれた学校づくり協議会では、限られた時間の中で、地域の情報や生徒の様子などを共有する場となっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も生徒会活動の一環として、六中学区の小学校との交流を行うことで、地域の中学校への関心を児童に持たせられるようにしていく。そのためにも、年2回の小中合同研修会を有効活用して教職員間でも意思疎通を図っていく。また、中学校において小学生の部活動体験など状況に応じて企画を行っていく。 今年度も実施することができなかったが、小中連携の一環として、子ども達に声掛けを行い、六中学区の二つの小学校の運動会などでボランティア活動を行うことを推奨していく。また、開かれた学校づくり協議会での意見を参考にして地域に根差した教育の実現を模索していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫のカリキュラム統一が必要では。 教職員間の小中連携は大切。 二小、境南小が入学前後は互いに意識しているところもあり交流も大切。 学区域の小学校での早い時期(低学年)から「地域の中学校六中」の位置づけが必要。「六中」の名前をより知ってもらえる企画や交流があると良い。
	地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響もあり地域の行事等の実施が少なかった。青少協主催のジャンボリーが今まで通りとはいかなかったが実施することができたので若干名ではあったが、参加することができて地域の力となった。また、毎年行なっている武蔵境駅前の花植え活動には地域の方と一緒に生徒が和気あいあいと活動することが今年もできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でジャンボリーの開催日と予定が合わず参加する生徒が若干名だったが、来年度は、ジャンボリーの日程が決まり次第、出来るだけ早い段階で生徒に伝達して、参加を促していく。 六中の年間行事予定が決まり次第、青少協やコミセン等地域に伝達する。そして、青少協やコミセン等地域が行う行事の企画運営に生徒がどのように関わられるかについて、確認や相談を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦のつながりを経験できるジャンボリーのリーダーが一人でも多く六中生から生まれてほしい。 年2回の花植え作業に積極的に参加していただき感謝。駅南北広場を花いっぱいにするため六中生に今後も期待しています。

<p>地域とともに歩む学校</p>	<p>・地域の様々な方々の協力を得て今年度は感染対策を講じながら、職場体験を行うことができた。また、今年度は美術部のみならず吹奏楽部がコミセン祭りに参加して地域の方々との交流の経験を持つことができた。今後も地域と関わりながら地域の方々と共に子ども達を育てていく。 ・学校の様子が地域の方々に伝わるように学校便り等をコミセンや地域の関係諸機関に配布する等の工夫を今後も継続して行っていく。</p>	<p>B</p> <p>・地域とともに子供たちを育てていくという視点を大切に地域での教育力を活用していく。特に地域コーディネーター等と相談しながら、今後も職場体験の受け入れ先や部活動の外部コーチなど六中独自の地域の人材バンクづくりを模索していく。 ・今後も地域のコミセンや諸機関と連携を密にして、より良い人間関係づくりを行っていくことで、子ども達が地域に貢献する場面を増やしていく。そのためには教育活動の情報提供を行い理解を深めていただく。</p>	<p>・部活動の一年間のスケジュールがわかると地域としても関わりやすいかもしれない。 ・期待しています。 ・ようやくコロナの影響もうすれ地域との関わりも密になれるようになってきたので地域もより関わりをもてるようになっていきたい。 ・早い時期に各行事にどのように関わられるのかを双方で考える機会があるとありがたい。 ・単なる学力以前の個人の能力の発見にもつながるので、地域での職場体験はとても良い。</p>
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○六中学区の二つの小学校との連携に加えて、青少協の方々との協力も得ながら、生徒によるジャンボリーや運動会などのボランティアを推奨して地域に根差した教育を展開していく。 ○地域に貢献する取組のひとつとして、今後も武蔵境駅前南北広場を花いっぱいにするための花植えや地域清掃などを継続して行い地域の活性化に向けた取組を推進していく。 ○今後も引き続き、学校だより、学年・学級通信、学校ホームページを利用して情報を発信していく。特に学校ホームページに関しては今後一層の充実を図っていく。 ○地域コーディネーターと連携して部活動の指導員など地域の教育力を今後も活用していく。</p>			

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
<p>学校運営</p>	<p>教職員の協力体制の充実</p>	<p>・教職員の協力体制や教育活動において「先生は、熱心に勉強を教えたり、相談に乗ってくれていると思う」、「先生方同士、協力して指導にあたっていると思う」という設問に「そう思う」「ややそう思う」の回答が、90%以上だったことは肯定的な評価ととらえることができる。今後一層「チーム六中」の体制づくりに取り組み、子ども達が安心安全に過ごせる環境作りに努めていく。また、今年度も保護者と教職員が協力しあうことで充実した学校行事を開催することができた。</p>	<p>B</p>	<p>・今後も子ども達が安心安全に学校生活を過ごせるように、学校環境を整えていく。そのためには教職員間の協力体制を充実して、人間関係が良好な和を大切に学校運営を心掛けていく。 ・教職員の協力体制においては、仕事が偏らないように役割分担を明確化するとともに、教職員一人一人が組織的に課題解決を行うという意識を向上させていく。特に、生活指導に関しては、視野を広くして声掛け等コミュニケーションをとって、一人で抱え込むことのないように、チーム力の向上を図っていく。 ・今後も教員以外の職員の紹介も含め、六中を支えている教職員の全体像が見えるように学校便りやPTA便り等を利用していく。</p>	<p>・教職員、保護者、地域と近い関係性が保たれているのではない。 ・教職員の努力に頭が下がります。特に教員の過重労働の問題は学校だけでは解決できない。 ・小規模な六中だからこそ先生方も生徒一人一人に目を向けて頂いていると思う。生徒の悩みなど相談にのりやすい雰囲気づくりをされている先生方のチームワークに今後も期待する。 ・生徒の評価が高いことは「良い学校」の証。先生方の心身の健康にも留意を。</p>
	<p>学校情報の充実</p>	<p>・むさしの学校緊急メールの登録を昨年に引き続き、入学式の後に説明することで新入生の保護者の登録数は100%となっている。 ・今年度も新型コロナウイルス感染症関連の情報提供や学校行事等の連絡を学校緊急メールや学校ホームページを利用して行ってきた。状況に応じて今後も配布物のお知らせと並行して行っていく。また、今年度も学習者用タブレットPCを利用したライブ配信を行うことができた。 ・今年度も学校だより等を地域に配布してPRに努めた。また、各種おたより(学年・保健等)も、定期的な情報提供ができていく。今後も個人情報の取り扱いには慎重に対応していく。</p>	<p>B</p>	<p>・地域に開かれた学校づくりに取り組んでいくために、今後も学校だよりや学年だより等の発行に加え、学校ホームページやむさしの学校緊急メールによる学校情報の発信を適宜行っていく。特に、学校ホームページの更新においては今年度以上に行い、六中の教育活動の見える化を推進していく。また、来年度も引き続き、学習者用タブレットPCを利用して部活動や学校行事等のライブ配信を状況に応じて行っていく。 ・各種おたより、学校ホームページ、ライブ配信等、学校情報を発信する際には、内容や個人情報を常に吟味、検証しながら、危機管理を心がけて学校情報の提供に努めていく。</p>	<p>・ICT機器の利用をさらに進化させてもらいたい。不登校の生徒にも活用が有効であるという結果もあります。 ・期待しています。 ・緊急メール登録100%となっていることはいざという時の対応も早いので良い結果ですね。PCやタブレットの活用が充実しているのはこれからの社会において必須なのでとてもいい。ライブ配信はとても羨ましい。</p>

《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》

- 生徒が安心安全に学校生活を送れるように、今後も教職員の働き方を考慮しながら和を大切に「チーム力」で学校運営に取り組んでいく。
- 学習者用タブレットPCを利用して部活動や学校行事等のライブ配信を適宜行うことで開かれた学校づくりの取組を推進していく。
- 学校ホームページやむさしの学校緊急メールを駆使して今後も情報発信を充実させていく。
- 入学式、保護者会、学校便りなどで、「チーム」を支える事務職員や用務主事、SC等の紹介を行っていく。